

## 今後の議論のポイント

(第3期知床半島エゾシカ保護管理計画)

第3期のイメージ: 「持続的に、どのように進めていくのか?」(151112 梶座長)

### 1) エゾシカ A 地区: 遺産 A 地区 - (特定管理地区 + 幌別-岩尾別台地)

#### ①ルシヤ地区の取り扱い (管理方針)

- ・現在、知床半島で最も高密度なエゾシカ越冬地(20.3 頭/km<sup>2</sup>)。夏期も高密度に生息。定着型が多い?
- ・少なくとも第3期には人為的介入を行わない方針でほぼ合意済み。
- ・モニタリングを強化?自然の推移に委ねる放置区(対照区)とし、個体数調整を実施している他の地区と、植生変化やエゾシカ個体群の質の変化等について比較する?

### 2) 特定管理地区(知床岬地区):

大方針: 気象条件(積雪量)に合わせて、その年の捕獲手法を柔軟に選択する

#### ②相対的低コストでのエゾシカ低密度状態の維持 (管理手法)

- ・有効な捕獲手法の候補および組み合わせは存在するか?(低密度、遠隔地、夜型、高い警戒心)
- ・多雪年には仕切り柵北側(仕切り柵内、知床岬先端部)における越冬期の生息数が増える(例:2015年)。ポロモイ湾北部およびカブト岩付近からの移入(流入)か。
- ・例 1)多雪年を狙った3~5年おきの(または5年おきの広域ヘリカウント実施年に合わせた)越冬期ヘリ・仕切り柵利用巻狩り?
- ・例 2)毎年春期の林内・林縁待ち伏せ捕獲?ハイタワー併用?
- ・例 3)少人数長期滞在型捕獲?
- ・例 4)薄明薄暮の夜間狙撃?
- ・例 5)小型船からの少数群対象 SS をカブト岩付近や赤岩側斜面で実施?  
(エゾシカ B 地区のうち捕獲未実施かつ増加傾向のモイレウシ・観音岩でも船 SS は有効か?)

### 3) エゾシカ B 地区: 遺産 B 地区 + 幌別-岩尾別台地

大方針: 第2段階目標 (個体数調整の中長期目標) の達成には革新が必要

#### ③「越冬環境改変」の方向性について (管理手法)

- ・他地域で越冬環境改変の成功事例はないか?
- ・例 1) 道路法面の牧草へのエゾシカのアクセスや採食利用を制限?
- ・例 2) 餌場から近い場所にある針葉樹林 (吹雪時等のシェルター) の利用を制限?
- ・例 3) 柵を設置して、餌場 (道路法面・急斜面等) のエゾシカによる利用を制限?
- ・例 4) 柵ではなく、繋留した犬により特定の餌場やシェルターを常時監視・攪乱?
- ・例 5) 複数のフリーレンジの犬により針葉樹林の攪乱反復 → 越冬環境悪化?

#### ④大幅な減少に成功した一方で、目標生息密度まで低下させることができていない状況下での、さらなる捕獲圧のかけ方 (地区ごとに異なる) (管理手法)

#### 幌別・岩尾別地区:

<岩尾別台地>

- ・岩尾別川河口右岸～大型仕切り柵の中間点付近の草原に集合しているエゾシカの効率的な捕獲手法は? 厳冬期の仕切り柵利用巻狩りを決行?

<幌別台地>

- ・幌別台地東側の海岸沿いや、プユニ岬付近のエゾシカの効率的な捕獲手法は?

<同地区全体>

- ・百平米運動地で夏期も含めて、少数ずつ安全に捕獲していくことは可能か?
- ・機動力がある箱わなの戦略的活用?

#### ルサ・相泊地区:

- ・地区北部 (相泊周辺) での安定的捕獲が課題。
- ・厳冬期 (2 月～3 月上旬) に高標高域に移動しているエゾシカを捕獲する手法。
- ・非効率になりがちな厳冬期は捕獲を休止し、12 月や 3 月中旬～4 月に捕獲圧を集中?

### 4) 隣接地域:

#### ⑤第2期計画で掲げていたコミュニティーベースの個体数調整をどう進めるか? (管理手法)

**斜里側:**

- ・林野庁事業の囲いわなは、既設箇所以外にも第3期計画期間中に新設する可能性があるか？

**羅臼側:**

- ・一部(海岸町～共栄町地区の町有林・国有林、春苧古丹川右岸地区)で増加傾向か？
- ・陰しい山の上にいる上記地区のエゾシカを、いかにして効率的に捕獲するか？
- ・希少鳥類生息地との重複の問題。
- ・春苧古丹川左岸の林野庁事業囲いわなは、第3期計画期間中に再開される可能性があるのか？

**5) 全地区共通:**

第3期管理計画に・・・

**⑥ 個体数調整の目標設定を具体的に記述するか？ (管理目標)**

→過去のWG資料「個体数調整の中長期目標」(本WG資料2-1のp.6)には既に記載あり

**⑦ 植生指標について記述するか？ (管理目標)**

- ・現在実施している調査・モニタリングにかかる時点評価。
- ・植生指標を用いた評価にかかるロードマップ(IUCN対応を想定)。
- ・簡易的手法による調査手法の検討。

**⑧ 捕獲技術者の育成(人材育成)をどのように進めるか？ (管理手法)**

- ・中長期的に持続可能な個体数管理体制(システム)の実現は可能か？

○議論のための参考資料

資料1-4(の一部):広域ヘリセンサス結果

資料1-6:ルシャ地区(およびルサー相泊地区)の季節移動調査結果

資料3-2:第2期計画の中間総括